

令和5年度 全国学力・学習状況調査から見える王寺町の児童生徒

はじめに

王寺町の児童生徒の学力・学習状況における教育課題を明らかにし、学校・家庭・地域が一体となって連携・協働することにより、その課題克服に向けて取り組むために調査の分析結果を公表します。

1 調査の概要

○調査の目的

- ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・本調査の結果を児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査実施日 令和5年4月18日(火)

○調査対象 王寺町立義務教育学校のすべての6年生と9年生

○調査内容

教科に関する調査 6年生【国語、算数】

9年生【国語、数学、英語】

※ 全国学力・学習状況調査が平成19年度から開始され今回で18年目の実施となりました。過度な序列化を防ぐため、平成29年度から、自治体別の平均正答率は、小数点以下を四捨五入し、整数値で示されるようになり、政令市ごとの平均正答率も公表されるようになりました。

平成22年度と24年度は全体の3割程度の抽出調査、平成23年度は、東日本大震災の影響等で全国的な実施は取り止めとなりました。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため実施を取り止め、令和3年度は新型コロナウイルス感染症により、調査日を例年より1か月後ろ倒しで実施しました。

全児童生徒を対象とした悉皆(しっかい)調査は今回で14回目となります。

英語に関しては平成31年度から4年ぶり2度目の実施になります。「話すこと」調査は、1人1台端末を用いたオンライン方式により実施されました。

2 調査結果の概要

(1)学力・学習状況調査結果の概要

◇ 王寺町の児童生徒の国語、算数・数学、英語の学力、国語、算数・数学、英語への興味・関心、規範意識、自己有用感、生活習慣・学習習慣を全国基準の状況と比較しました。6年生・9年生共に、学力については比較的高位にあります。一方、生活習慣・学習習慣については、全国より低位になっている所もあります。学習状況は、学力に大きく影響するという分析もあります。いずれの項目も改善するように、学校、家庭、地域が協力して取り組んでいく必要があります。

(教科調査の結果)

◇ 自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことや、データの特徴や傾向を読み取ること、科学的な探究の過程で問題を見いだしたり考えの妥当性を検討して改善したりすることに課題が見られました。昨年度から取組をはじめたリーディングスキルテストの結果を活用するなど、改善に向けて取り組んでいく必要があります。

(質問紙調査の結果)

◇ 学習指導要領が目指している「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善の取組が昨年度から引き続き進んでいます。

◇ 英語については、言語活動(領域別)の指導状況について、肯定的に回答した学校の割合は前回よりも増加しています。特に「話す(やりとり)」や「統合的な言語活動」に取り組んでいると肯定的に回答した学校の割合は11ポイント以上増加しています。

授業において言語活動に取り組んでいると受け止めている生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られます。

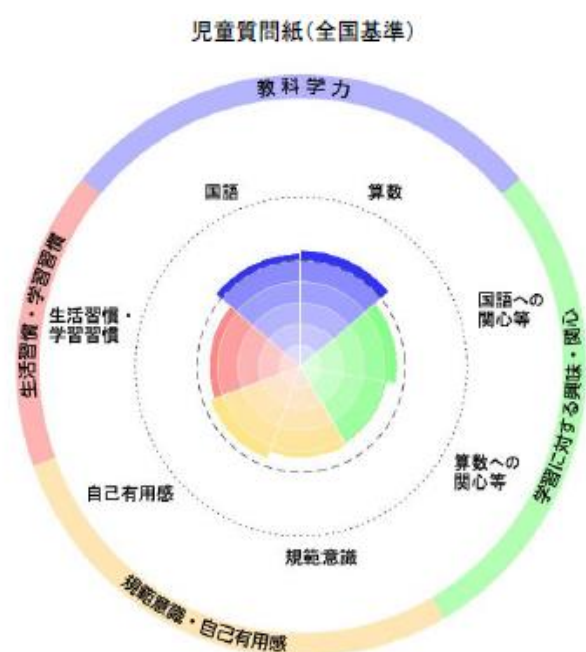
王寺町では各義務教育学校の前期課程において英語に教科担任制を導入し、専門性が高い教師が指導に当たっています。

◇ ICT機器の活用が進んでいます。授業においてICT機器を「ほぼ毎日」活用している割合は、昨年度より小中学校ともに約7ポイント増加しています。

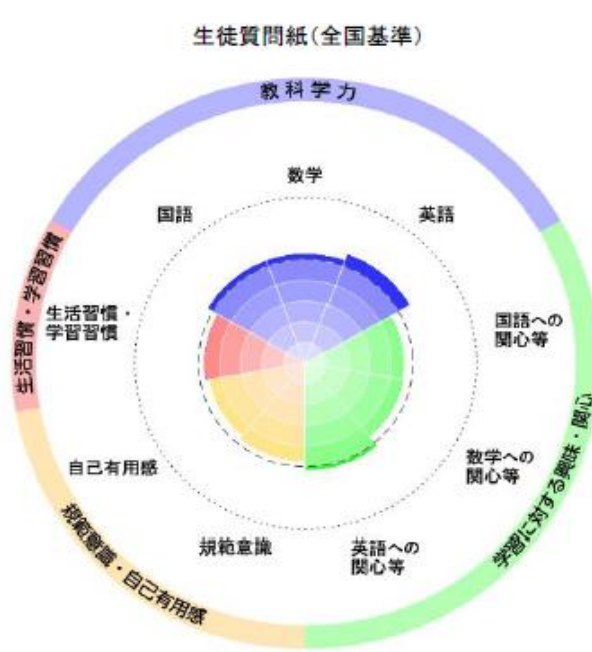
また、ICT機器が、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されています。

王寺町では各義務教育学校に、大容量の高速Wi-Fi、超短焦点型プロジェクターを設置した黒板、一人一台のタブレット端末、教師用デジタル教科書等、環境整備の充実を図るとともに、ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の充実を図っています。

6年生



9年生



(2)教科に関する調査結果

調査結果を学校種別・教科別に王寺町・奈良県・全国の平均正答率を比較しました。

【この調査結果における平均正答率等は学力の特定の一部を表わしたものであり、学校における教育活動の一側面となります。】

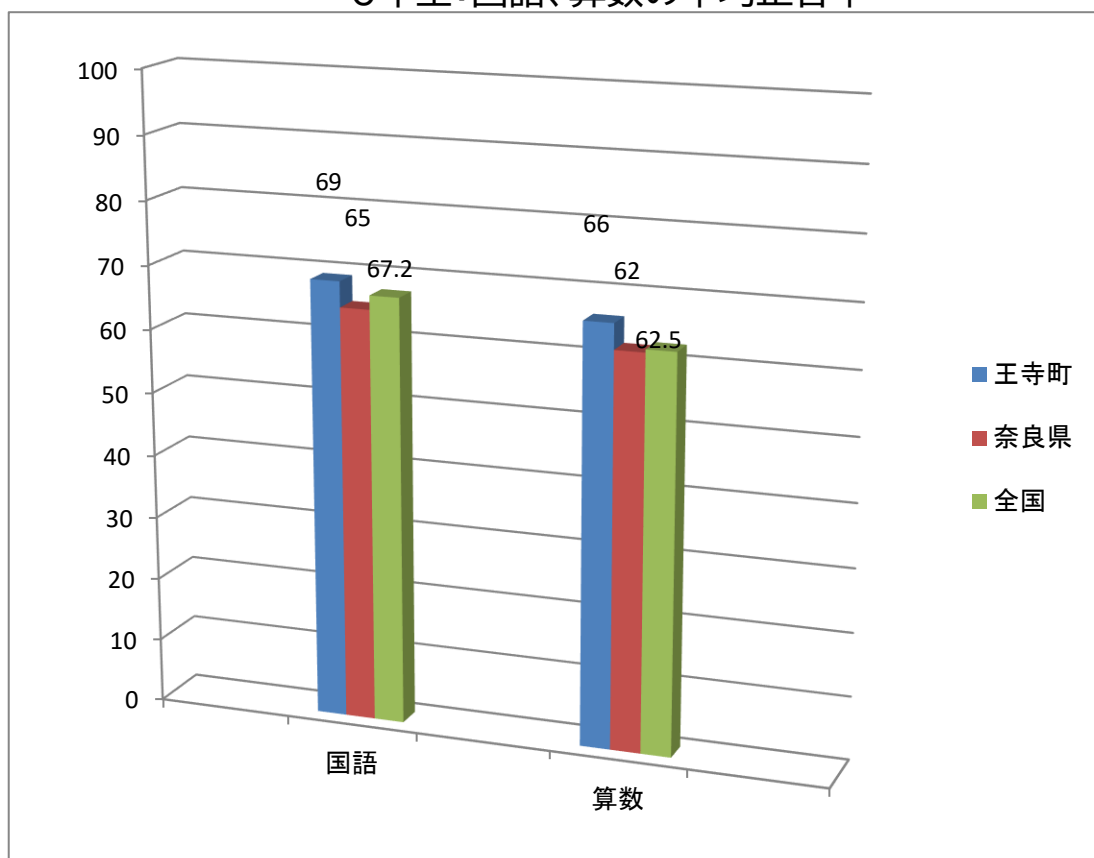
<<全般的な出題内容と全国的な傾向>>

【教科全体】

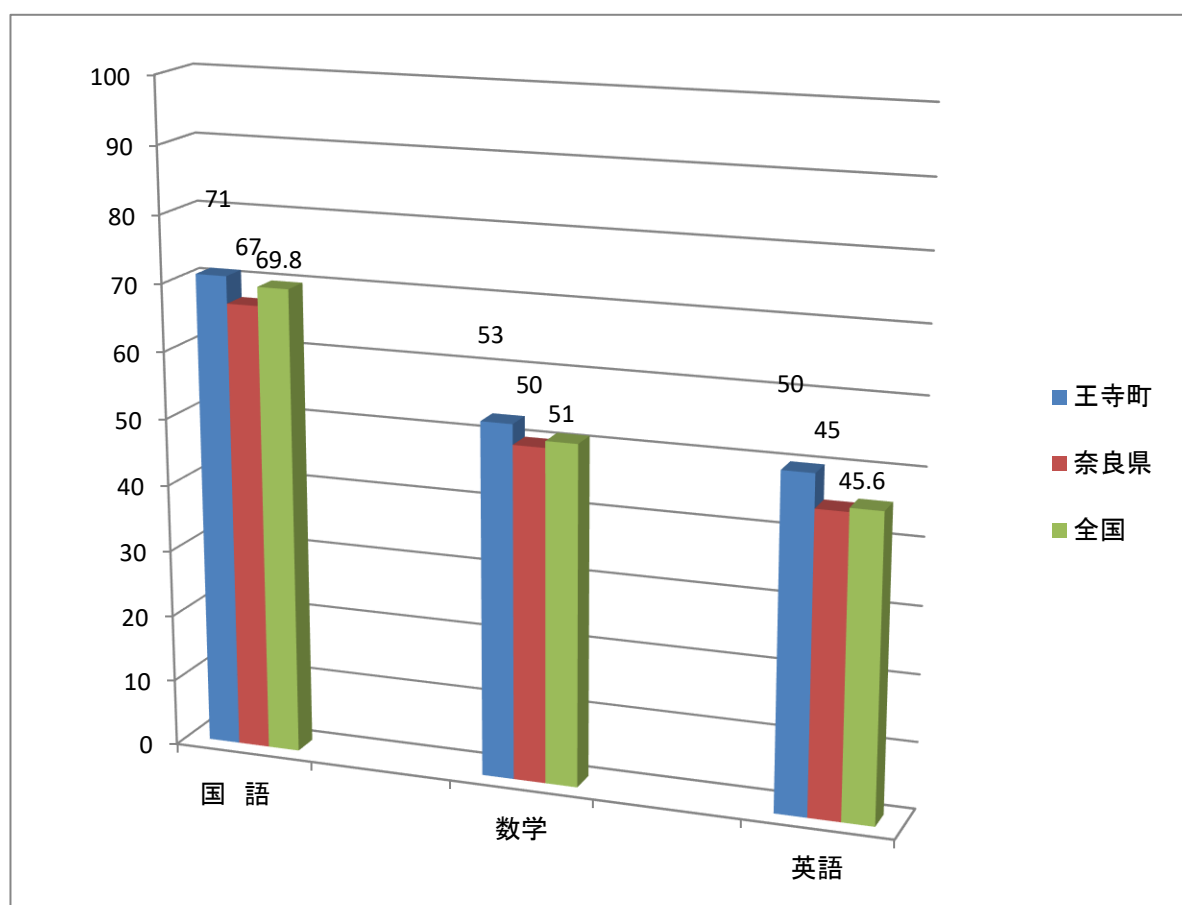
◇ 奈良県の正答率は、小学校、中学校ともすべての教科で全国平均より低い結果となりました。王寺町立義務教育学校の6年生と9年生の正答率は、すべての教科で奈良県平均より高くなりました。全国平均との比較でも、すべての教科で高くなっています。

◇ 思考力や表現力を問う応用問題の不振は、全国的な傾向としてテスト開始当初から続いています。必要な情報を読み取り、前後のやり取りから自分の考えを軌道修正したり、相手の発言の意図を理解したりすることにより、実社会で必要とされる論理的に表現する力をいかに育てるかが課題となります。そのため王寺町ではリーディングスキルテストを実施するとともに、令和5年度からは県立教育研究所が実施する「読解力向上プロジェクト」に参加し、情報を読み取る力の実態を明らかにし、指導法の改善につなげていきます。

6年生:国語、算数の平均正答率



9年生:国語、数学、英語の平均正答率



【6年生 国語】

（結果概要）

- 話や文章の中心となる語や文を捉えることは比較的できています。
- 複数の情報を整理して、自分の考えをまとめたり、書き表し方を工夫したりすることに課題があります。

〈情報の扱い方に関する事項〉

- ◆ 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことに課題があります。
- ◎ 情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるようにすることが大切です。

〈話すこと・聞くこと〉

- ◇ 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや聞き手が聞きたいことを中心に捉えることはできています。
- ◎ 立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるなどの学習活動を充実させることが大切です。

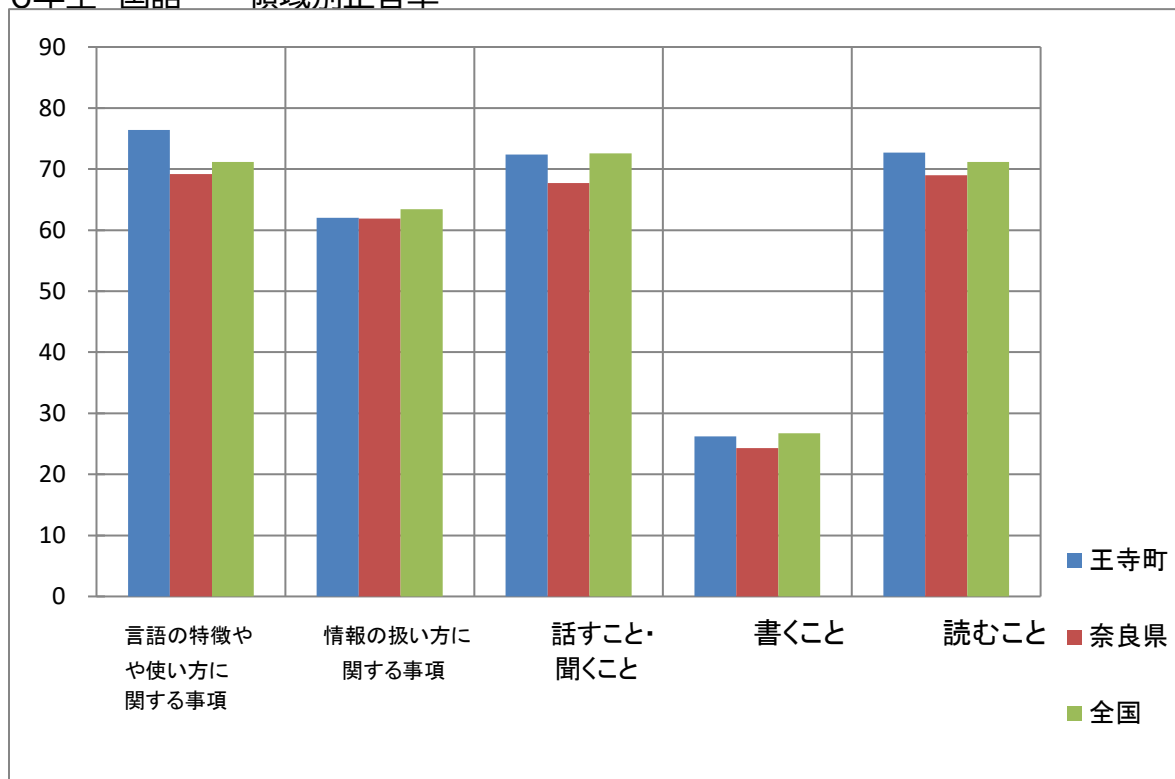
〈書くこと〉

- ◆ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。
- ◎ 必要に応じて、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるようにすることが大切です。

〈読むこと〉

- ◇ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したものを選択することはできています。
- ◆ 複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題があります。
- ◎ 日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり関連付けたりして検討することが大切です。

6年生 国語 領域別正答率



【6年生 算数】

（結果概要）

- 式を日常生活に関連付けて読み取ることはできています。
- 図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題があります。

〈数と計算〉

- ◇ ()を用いた式や、加法と乗法の混同した式を場面と関連付けて読み取ることはできています。
- ◆ 示された場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することに課題があります。
- ◎ 日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるようになることが大切です。

〈図形〉

- ◇ 正方形の意味や性質について理解することはできています。
- ◆ 高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題があります。
- ◎ 具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり適当な数値を当てはめたりして考えることができることが大切です。

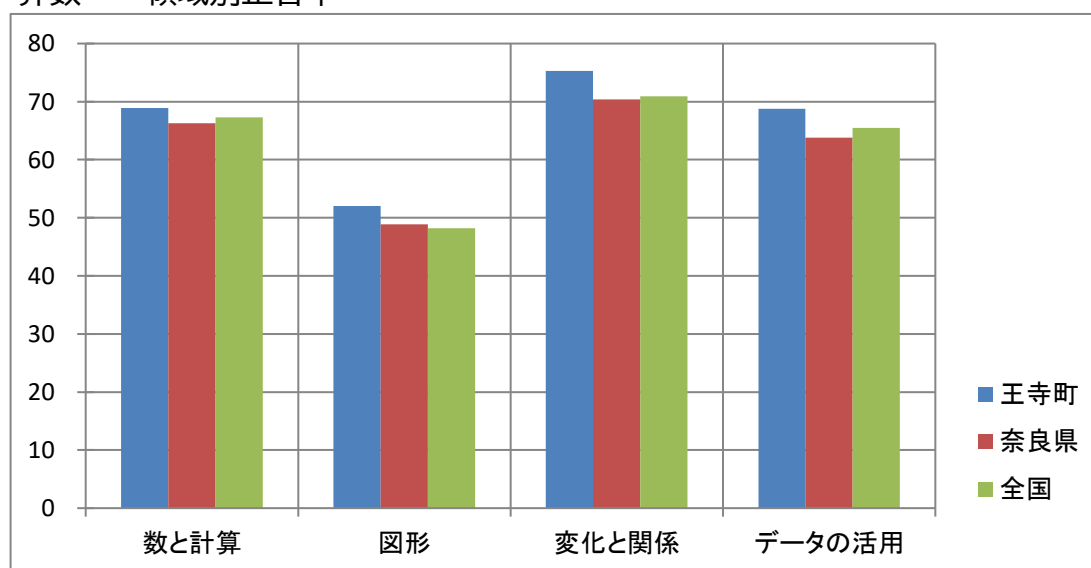
〈変化と関係〉

- ◇ 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係でないことを証明するために、示された表の中の適切な数の組を選ぶことはできています。
- ◆ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述することに課題があります。
- ◎ 伴って変わる二つの数量が、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさの求め方を説明できるようになることが大切です。

〈データの活用〉

- ◇ 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできています。
- ◆ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述することに課題があります。
- ◎ 複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそう考えたかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるようになることが大切です。

6年生 算数 領域別正答率



【9年生 国語】

（結果概要）

- 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできています。
- 情報と情報との関係について理解することに課題があります。

〈言葉の特徴や使い方に関する事項〉

- ◇ 事象や行為、心情を表す語句について理解することはできています。
- ◆ 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があります。
- ◎ 漢字の書きについては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得するとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことができるようになることが大切です。また、1人1台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるように、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることができることも大切です。

〈情報の扱い方に関する事項〉

- ◆ 情報と情報との関係について理解することに課題があります。
- ◎ 「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報の関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できることが大切です。

〈話すこと・聞くこと〉

- ◇ 目的や場面に応じて質問する内容を検討することや、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできています。
- ◆ 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することに課題があります。
- ◎ 話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問できるようになることが大切です。

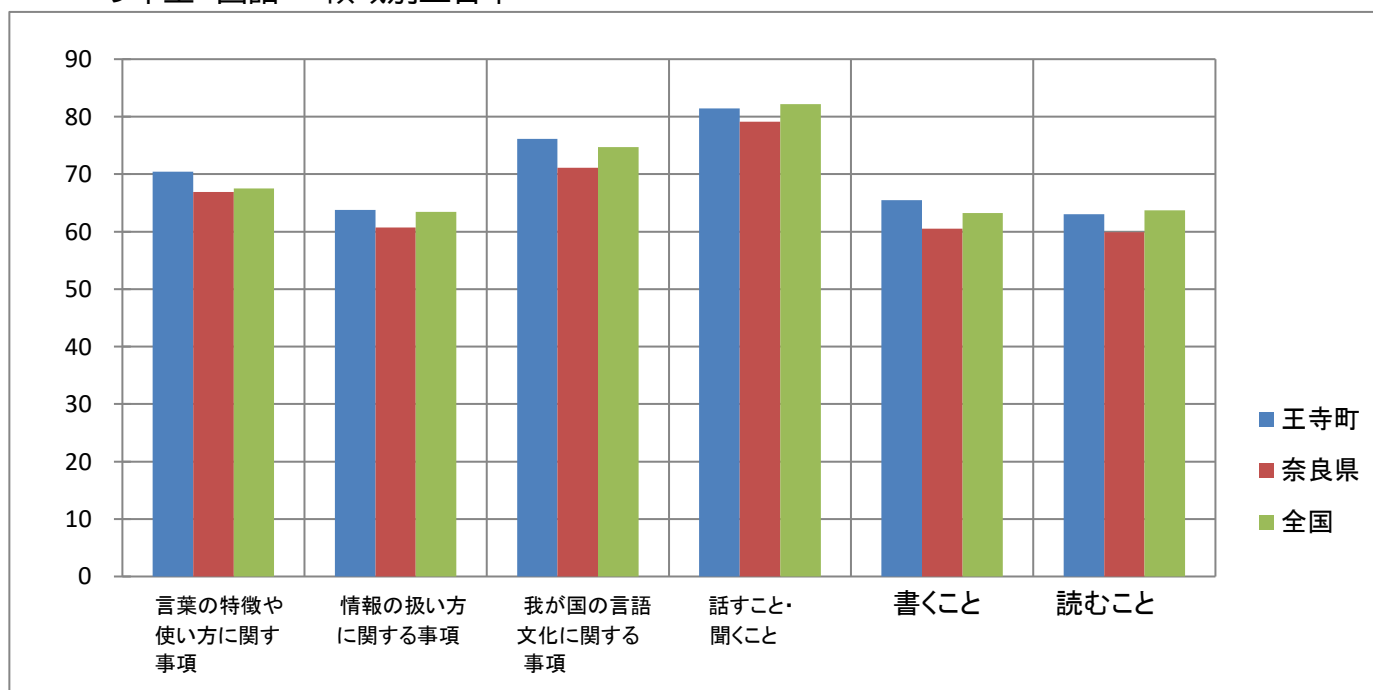
〈書くこと〉

- ◇ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、改善の状況が見られます。
- ◎ 複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠とするのかを検討したり、取り上げる根拠をどのように文章中に記述するかを吟味したりする学習活動を充実させることが重要です。

〈読むこと〉

- ◇ 文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することについては、改善の状況が見られます。
- ◆ 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけて、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があります。
- ◎ 文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章の内容を理解するだけでなく、自分の知識や経験と結びつけることによって、理解したことや考えたことをより具体的に明確なものにしていくことが大切です。

9年生 国語 領域別正答率



【9年生 数学】

（結果概要）

- 基礎的・基本的な計算技能は、身につけています。
- 問題解決の過程や結果を振り返って考察することに課題があります。

〈数と式〉

- ◇ 数と整式の乗法の計算をすることはできています。
- ◆ 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見だし、説明することに課題があります。
- ◎ 事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動が大切になります。

〈図形〉

- ◆ 空間における平面が同一線上にない3点で決定されることの理解に課題があります。
- ◆ 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題があります。
- ◎ ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現できることが大切です。

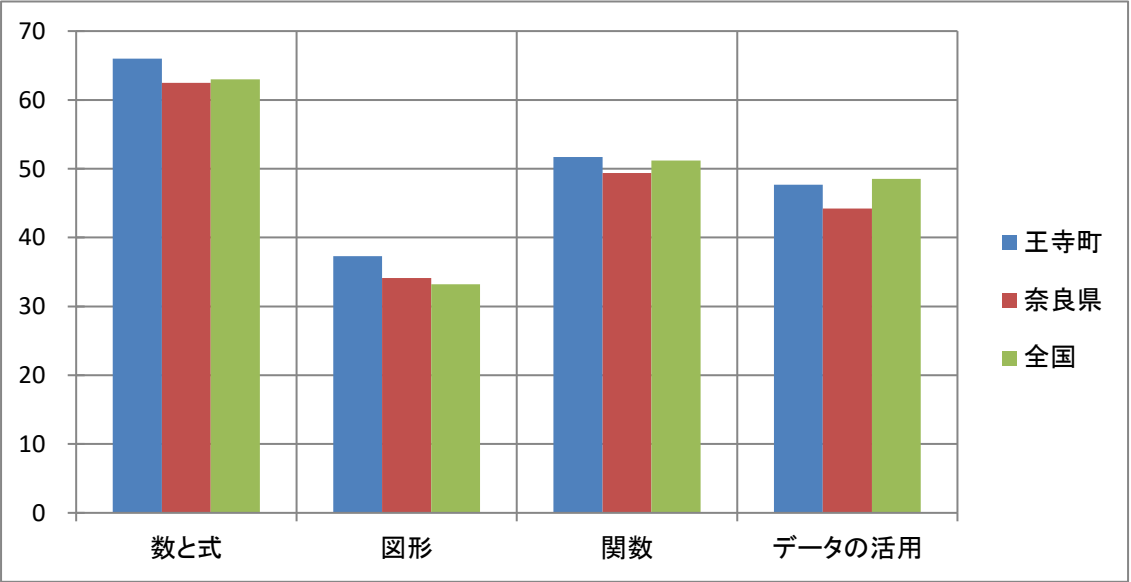
〈関数〉

- ◆ 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することに引き続き課題があります。
- ◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題があります。
- ◎ 数学を活用して様々な問題を解決できるようにするために、表、式、グラフのどれをどのように用いたかについて数学的に説明できる活動を充実することが大切です。

〈データの活用〉

- ◆ 複数の集団のデータの分布傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。
- ◎ データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて的確に説明できるようにすることが大切です。

9年生 数学 領域別正答率



【9年生 英語】

（結果概要）

- 日常的な話題について、短い乗法を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることはできています。
- 日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすることに課題があります。

〈聞くこと〉

- ◇ 日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ることはできています。
- ◆ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題があります。
- ◎ 自分の置かれた状況を把握し何を聞き取るか理解した上で、それらに関連する語句や表現に着目して必要な情報を聞き取ることができるようになることが大切です。

〈読むこと〉

- ◇ 日常的な話題について、文と文との関係を正確に読み取ることはできています。
- ◇ 日常的な話題について、事実と考えを区別して読むことはできています。
- ◆ 日常的な話題に関する文章の概要を捉えることに課題があります。
- ◎ 説明文を読んで、概要を捉えるためには段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捕らえることができるようにすることが大切です。

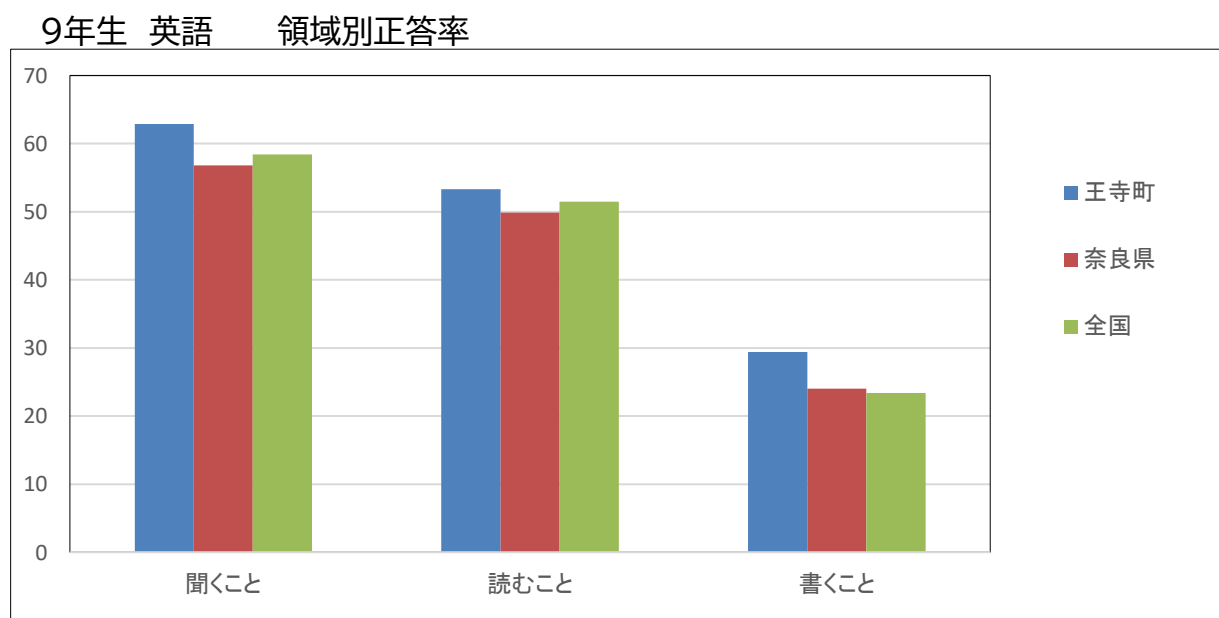
〈書くこと〉

- ◆ 社会的な話題について、自分の考えやその理由を書くことに課題があります。
- ◎ 自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れることが大切です。

〈「話すこと」について〉

（結果概要）

- ◆ 社会的な話題について聞き、自分の考えとその理由を話すことに課題があります。
- ◎ 社会的な話題に関して分かった情報を整理し、既習の表現などを活用しながら、自分自身の考えや気持ちを理由などとともに話して伝えられることが大切です。
- ◎ スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を継続的・計画的に取り入れることが大切です。



3 児童・生徒質問紙調査の経年変化

【質問紙調査】

◇ 義務教育学校の児童生徒に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査が実施されました。学校に対する質問紙調査は約80項目。児童生徒に対する質問紙調査は約70項目ありました。平成25年度～令和5年度の経年変化について整理し、その中から特徴的な項目を抜粋しました。

① 【朝食を毎日食べていますか】

6年生では、経年の傾向としては95%前後の児童がほぼ毎日朝食を食べていますが、今年度は92%(全国平均は94%)と昨年同様やや減少しています。一方、9年生では、ほぼ毎日朝食を食べている生徒の割合は以前の80%台への減少傾向から、3年前より約90%に回復し、今年度は93%(全国平均は91%)となっています。

② 【学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしていますか】

例年の傾向として、2時間以上勉強している児童の割合は40%台前半でしたが、今年度は33%と減少しています。これは、全国平均と比べると約2ポイント高くなっています。

また、2時間以上勉強している生徒の割合は44%で、こちらも昨年より7ポイント減少しました。全国平均との比較では約10ポイント高くなっています。

③ 【学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書をしていますか】

「読書は好きですか」の問いに対して、王寺町の児童の73%、生徒の66%が肯定的な回答をしており、読書好きな状況が見えます。

一方、平成28年度までの児童生徒の読書時間の割合は、全国平均と比較しても特徴的な点はありませんでしたが、令和5年度は「全くしない」児童の割合が30%になっています。これは、昨年度より4ポイント減少しましたが、全国平均よりも5.6%高い状態になっています。

生徒は「1日当たり30分以上、1時間未満は読書をしている」割合が令和3年度には82%まで増えていましたが、令和4年度は14.7%になり、「全くしない」生徒は41%になっています。(全国平均は36.8%)

全国的に読書の時間が減少していますが、王寺町の児童生徒の学校以外の場面での読書離れも大きくなっています。

④ 【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

例年の傾向として、地域行事に参加している児童生徒の割合は、全国平均よりもかなり高くなっていましたが、令和5年度の「参加している+どちらかといえば参加している」割合は、児童が60%、生徒も38%と両者とも全国平均と同様になっています。また、それぞれの結果は令和3年度以降、低いものになっており、コロナ禍の影響が見て取れます。

⑤ 【新聞を読んでいますか】

「ほぼ毎日読んでいる+週に1～3回読んでいる」と回答した児童の割合は14%で、全国平均と同様の結果になりました。

生徒は8.3%で、こちらも全国平均とほぼ同様の結果になりました。また、王寺町の結果も全国の結果も新聞を全く読まない児童生徒の割合が75%を超え、新聞を読まない児童生徒の割合が増えています。

新聞を読んでいる割合が伸びない背景として、新聞を定期購読している家庭が減ってきていることが考えられますが、王寺町では、平成28年度から小学校・中学校の各教室(小学校は5・6年生の教室)と学校図書館に新聞を配置しています。

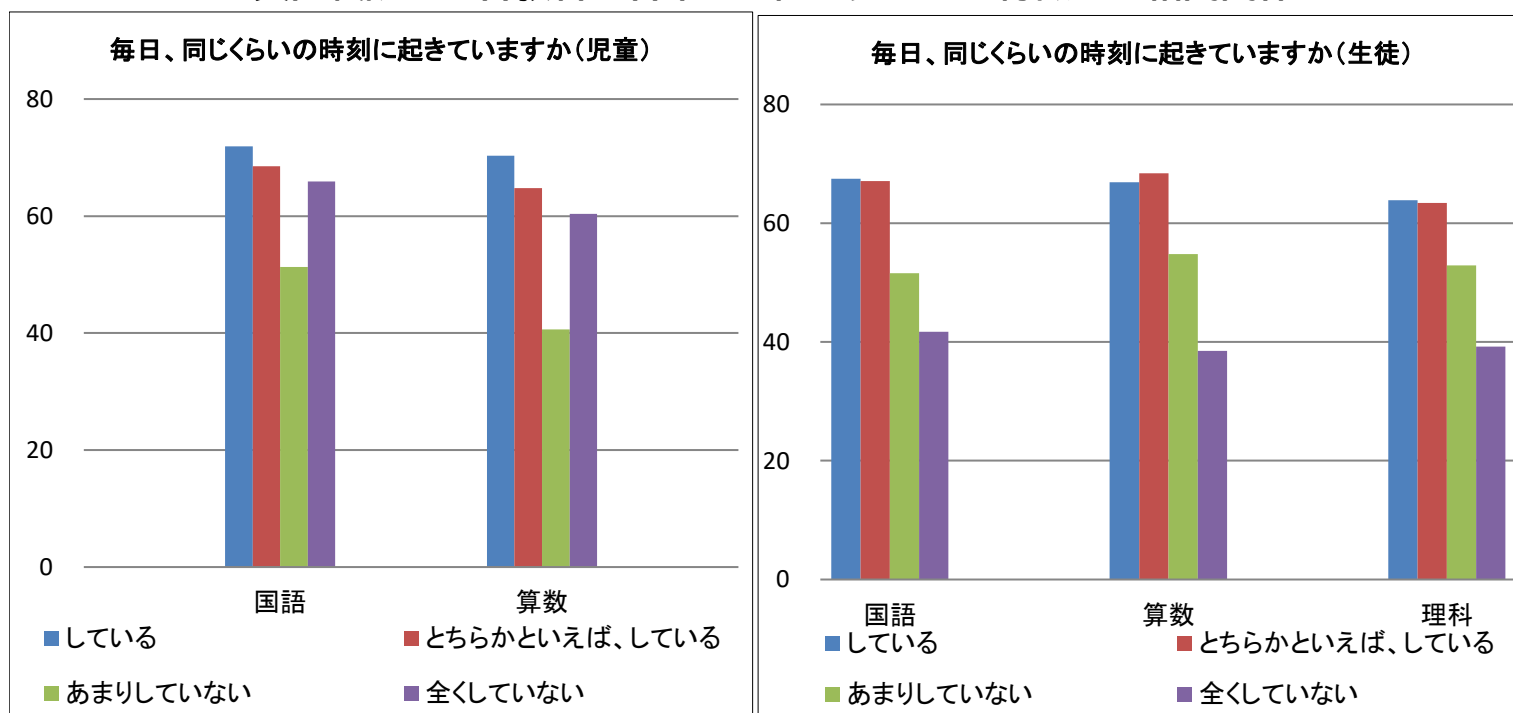
※令和5年度からはデジタル新聞を導入し、タブレット端末から新聞を読むことができるようにしました。

各学校がNIE(Newspaper In Education=学校で新聞を教材として活用する)教育に力を入れています。

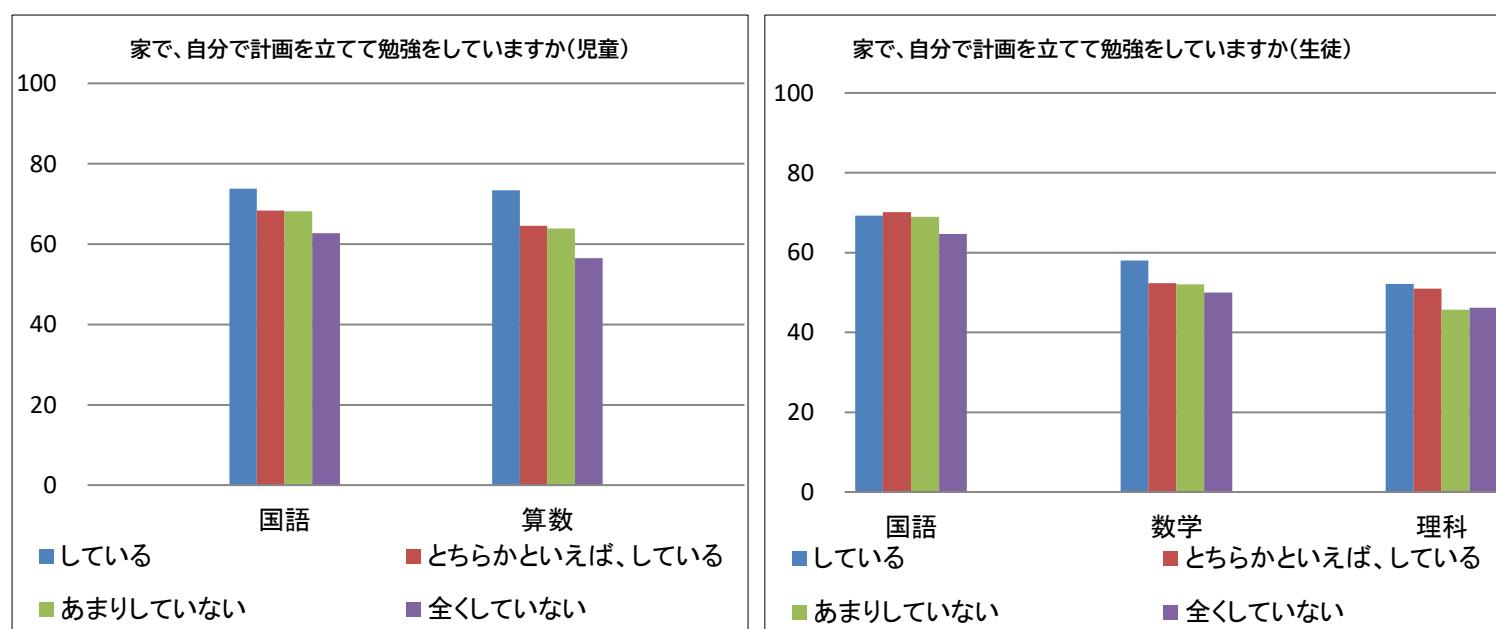
4 家庭への提案

児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査と国語、算数・数学、理科の各教科正答率との間に相関関係が見られる項目がありますので、今後、お子様の家庭生活を見直す資料にしていきたいと思います。

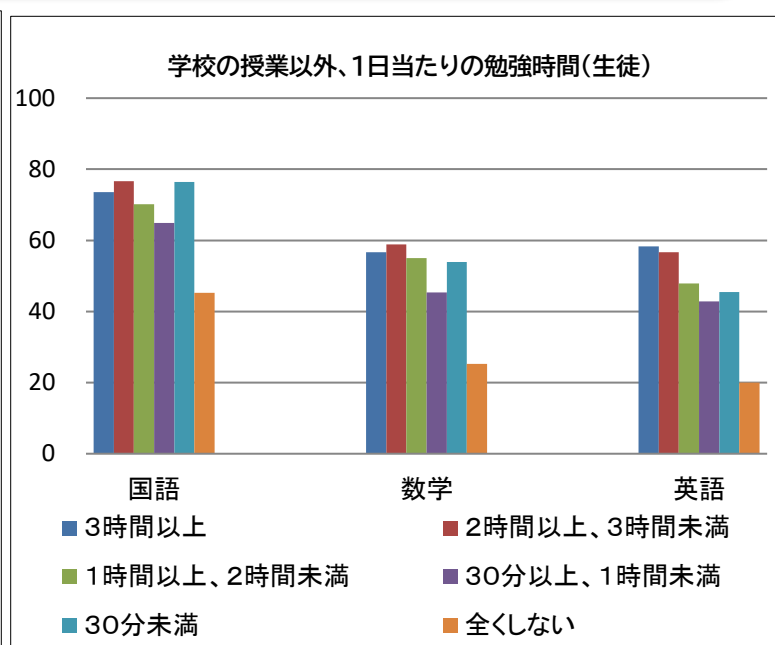
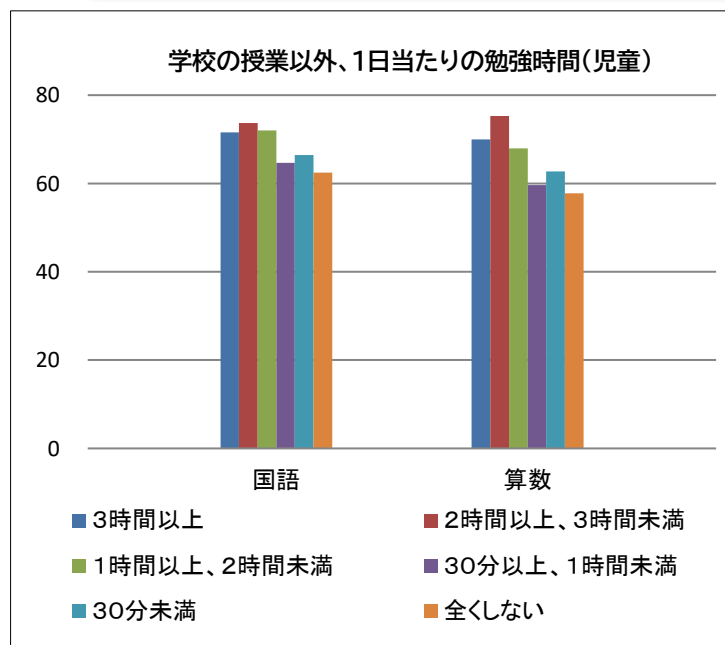
<<質問紙調査と各教科正答率との間に見られる特徴的な相関関係>>



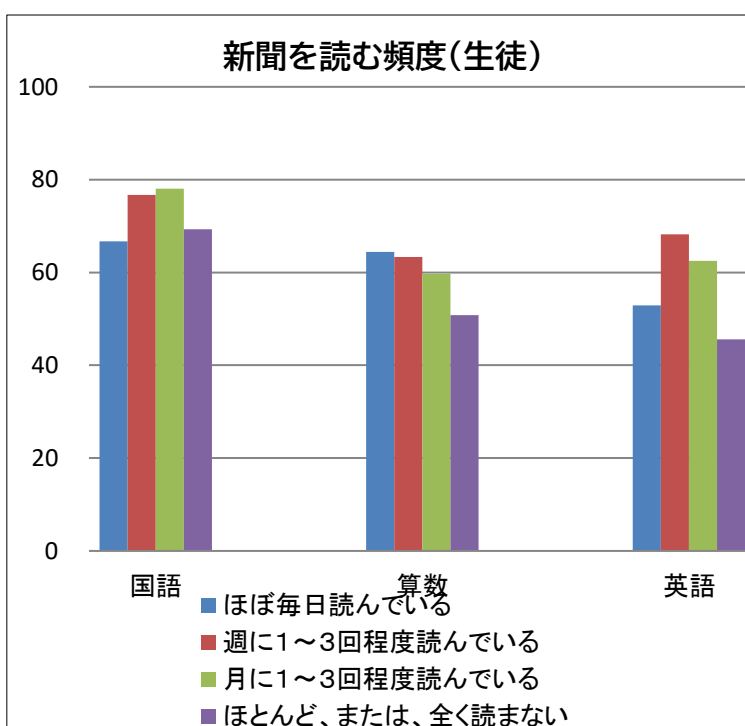
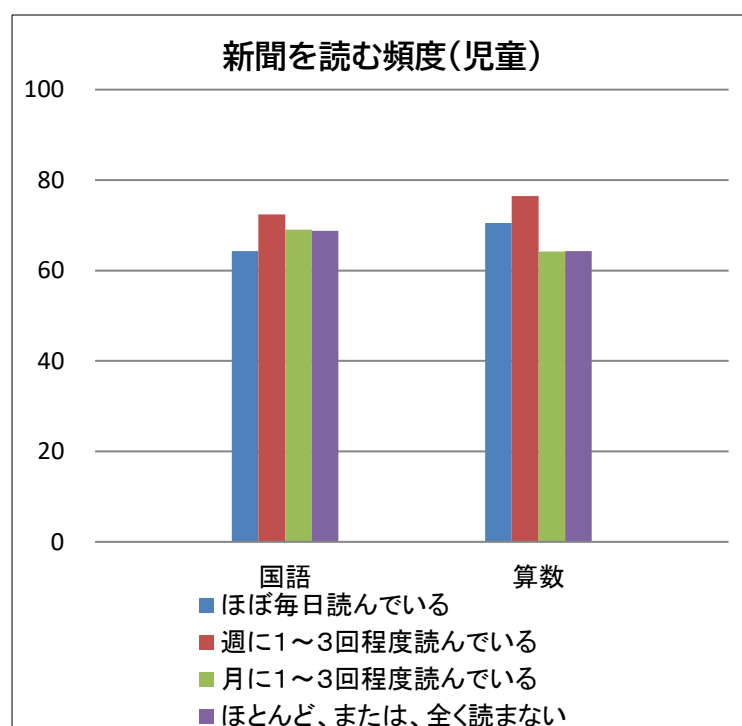
毎日同じ時刻に起きている生徒は、正答率が高い傾向が見られます。例年は部活動や塾等により生徒は生活リズムがとりにくい状況がありましたが、今年は児童の方が不規則になっているようです。



家で、自分で計画的に勉強している児童は、目的意識を持って効率的に学習しているので、当然のことながら各教科とも高い正答率を示しています。生徒については児童ほど顕著ではありませんが、同じ傾向が見られます。



学校の授業以外、1日当たりの学習時間をしっかり確保している児童と全くしていない児童の正答率の差は大きいです。生徒の方も同様の傾向が見られます。

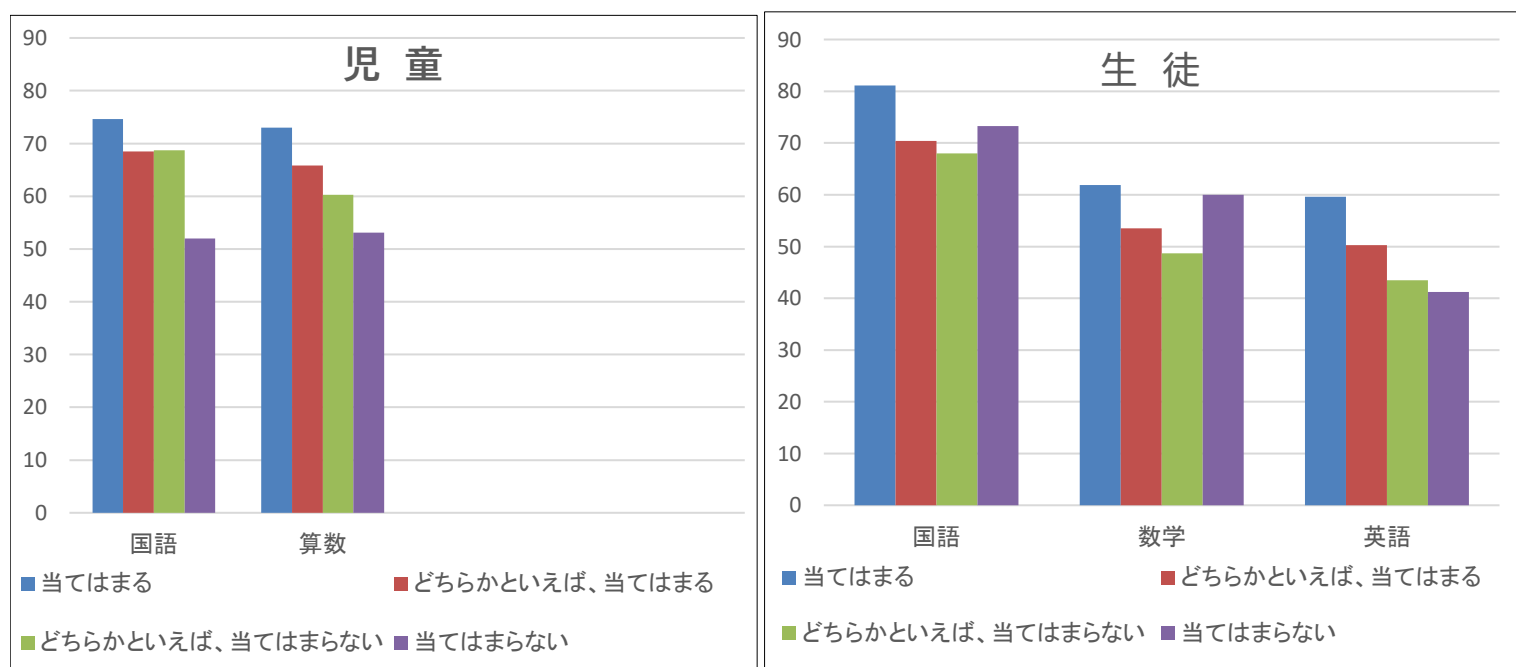


新聞を「ほぼ毎日読んでいる」+「週に1～3回程度読んでいる」など読む頻度の高い生徒の正答率が高く、「ほとんど、または、全く読まない」生徒の正答率は低くなっています。児童については、顕著な傾向は見られませんでした。

(注)新聞を「ほぼ毎日読んでいる」+「週に1～3回程度読んでいる」割合は、児童約14%、生徒約8%でした。昨年度より児童で16ポイント、生徒で32ポイントそれぞれ減少しています。

児童生徒を主体とした授業改善に向けて

今まで受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



授業中課題解決に向けて、自分なりに考え、取り組んでいる児童生徒の正答率は6年生も9年生も高くなっています。課題を設定し、主体的に課題解決に取り組むことが大切です。また、講義型の授業ではなく、問題解決型の授業を行うことが重要と考えます。

5 王寺町教育委員会の取組

子どもたちの主体的な学習態度を育み、学習習慣、生活習慣を身に付け、自己肯定感、規範意識等を育むために、王寺町教育委員会と幼稚園・義務教育学校が連携して様々な取組を進めています。また、学校教育分野だけでなく生涯教育分野も含め様々な施策を実施しています。学校をはじめ、家庭、地域、行政等が目標を共有しながら協力して取り組んでいます。

○教科担任制による専門的な指導

算数は5・6年生、理科は5・6年生、英語は3・4・5・6年生に専科教員を配置し、後期課程教員の授業支援を受け、体育、音楽、図画工作(美術)の教科担任制を行い、教科指導の専門性を生かした授業を行い、学力・体力の向上を図っていきます。

○教職員研修の充実による指導力の向上

「分かりやすい授業」・「やる気を引き出す授業」を構築するための授業研究、ICT等を活用した指導方法の研究など教職員の指導力向上のための研修を実施しています。

○教育施設・設備の整備

児童・生徒が安全・安心で快適に学校生活を送ることができるように、義務教育学校の新築、改修工事に伴い、学校施設・設備を整備し、教育環境を充実させ、教育効率を向上させるよう努めています。

○ICT教育の推進

義務教育学校で、ICTを活用したプログラミング学習を進めています。また、デジタル教科書も使用しています。全児童生徒に配布した一人一台のタブレットの活用のため、各学級にプロジェクターを設置し、10GBの高速無線システムを導入しています。各校にICT支援員を配置し、授業支援等を行っています。さらに各義務教育学校には、学校図書館とICT環境を融合させたメディアセンターを設置し、学校全体のICT環境を整備しています。

○総合学力調査の実施

5～9年生を対象に、国語、算数、社会、理科、英語(7年生以上)の総合学力調査を実施し、児童生徒の学力の伸長状況を把握し、その結果を踏まえて一人一人に応じた個別最適な学びを実現するための授業改善につなげる取組を実施しています。

○個別最適な学びへの取組

令和元年度より算数の学習で個別最適な学びへの取組を進めてきた結果、数学的思考の面で、その成果が現れてきました。今年度からは総合学力調査(年2回)と、国語、算数数学、社会、理科、英語の一人一台のタブレットを活用したオンラインドリル学習にも取り組んでいます。

○町費講師等の配置

児童、生徒の学力の向上、集団生活への適応等を図るため、各義務教育学校に教員資格を持つ町費講師や様々な児童、生徒と関わる支援員を配置し、児童生徒の学習や学校生活のサポートを行っています。
幼稚園には特別支援教育に関わる講師を加配しています。

○学校・家庭・地域の三者連携による教育力の向上

「地域に開かれた学校づくり」「地域の子どもを地域で見守る」「子どもたちの発達段階に応じた形で社会参加・社会貢献する」という3つの視点を大切に、学校を拠点とした子どもたちと地域の人々をつなぐ「学校・地域パートナーシップ事業」を実施しています。学習支援、環境整備、登下校の見守りなど、地域の方々のボランティア活動に支えられています。

○挨拶運動の推進

王寺町あげての挨拶運動(「あいさつ+1」運動)を実施し、日常的な挨拶を通して幼児・児童・生徒の規範意識の向上だけでなく、社会性やコミュニケーション力を育んでいます。

○外部人材を活用した教育活動の実施

幼稚園・義務教育学校において、奈良学園大学や奈良教育大学教職大学院の大学院生による学校教育への支援を受け、より丁寧な教育内容を提供しています。また学生自身が教育現場で経験を積むことにより、今後の人材育成につなげる授業支援学生ボランティア活動を実施しています。

○読書活動の推進

豊かな感性や情操を育むため、学校図書館司書を義務教育学校に配置し、読書活動の推進、蔵書管理システムや電子図書の導入、図書の購入等による学校図書館の充実を図っています。また、町立図書館との連携強化も図っています。

○幼稚園、義務教育学校を通した外国語(英語)教育の実施

幼稚園では英語体験保育、義務教育学校では1年生から外国語(英語)教育に力を入れています。幼稚園と義務教育学校にネイティブスピーカーである外国人講師(ALT)を派遣し、幼稚園～9年生まで切れ目のない外国語(英語)教育に取り組んでいます。

○放課後学習支援事業として王寺町寺子屋塾(愛称:雪丸サポートスクール)の実施

4年生～9年生までを対象として、児童は週3回各2時間ずつ、生徒は週2回各2時間ずつの王寺町寺子屋塾(雪丸サポートスクール)を実施しています。地域の経験豊富な人材を活用し、児童生徒一人一人の学力及び学習意欲の向上と学習習慣の定着と、地域の教育力の強化を目的として実施しています。

6 保護者・地域の皆様へ

- ☆「早寝、早起き、朝ごはん」が生活の基本となります。これからも規則正しい生活を心掛けましょう。
- ☆ 学校の授業で習ったことの復習と予習を中心に家庭学習の習慣を付けましょう。
- ☆「褒めて伸ばす」「認めて伸ばす」ことが自己肯定感の育成につながり自尊感情が醸成されます。
- ☆ 児童生徒の規範意識の向上には、学校・家庭・地域が欠かすことの出来ない大切な役割を果たします。規範意識の高い環境づくりに取り組みましょう。
- ☆ 家族で地域の行事やボランティア活動に参加し、社会で起こっている出来事を話題にするなどして、社会生活に関心をもち、社会参画意識を醸成するよう心掛けましょう。